

受賞のことば

実践的なマクロモデル分析

東京大学准教授 仲田 泰祐

受賞を大変喜んでおり、このような名誉ある賞を頂き大変光栄です。審査員の方々に感謝致します。そして、この場を借りてこれまで私を支えてきてくれた全ての方々に感謝申し上げます。

政策の仕事に興味があつて大学卒業後にカンザスシティ連邦準備銀行に就職しましたが、そこで見た経済学と実務が交差する世界に惹かれて、経済学者の道に進むことにしました。博士号を取得してからは、連邦準備制度理事会(以下、連銀)で政策の仕事と研究に励む機会を頂きました。

連銀では、これからの金融政策のありかたを考える際のお役に立つことを目指し、不確実性・信頼・非合理的な期待形成といったこれまでゼロ金利制約の文脈ではあまり分析されていなかった要素が、最適政策にどのように影響するかを理論的に研究しました。研究成果の一部は徐々にですが政府高官のスピーチ・メディア等で引用されるようになり、金融政策の世界標準形成の現場に新しい視点を提供することが出来たのではないかと考えております。

昨年日本に戻ってきてからは、コロナ感染症対策と社会経済活動の両立の模索のお役に立てればと思い、疫学モデルに経済活動を組み込んだモデルを構築して様々な分析を行っています。同僚の藤井大輔さんと共に20名ほどからなる研究チームを立ち上げ、日々賑やかに分析をしています。大きなチームで研究するためには大きな資金が不可欠です。資金を提供して頂いている方々にこの場を借りて感謝申し上げます。また、良い学術雑誌に掲載される可能性がほとんど無い泥臭い分析ばかりにも関わらず、本気で取り組んでくれているチームメンバー全員に感謝しています。

官邸、内閣府、コロナ分科会といった政策現場だけでなく、新聞やテレビの情報番組などを通じて一般の方々にも藤井仲田分析が届いています。もしもこれまで経済学には馴染みのなかったかもしれない方々が、我々の分析に何かしらの価値を見出して頂けているのならば、非常に嬉しく思います。

今後も、政策現場、一般の方々に出来るだけ直接的な価値を提供することを目指して、研究と政策分析に尽力していきたいと考えています。

なかた たいすけ

2003年シカゴ大学卒、12年ニューヨーク大学Ph. D. (経済学)取得。米連邦準備理事会 (FRB) 調査部エコノミスト、主任エコノミストなどを経て、20年4月から東京大学大学院経済学研究科兼公共政策大学院准教授。主な論文に “Financial Stability and Optimal Interest-Rate Policy” (共著、*Board of Governors of the Federal Reserve System Working Paper*)、 “When and how to adjust beyond the business cycle? A guide to structural fiscal balances” (共著、*IMF Technical Notes and Manuals*)、 “Uncertainty at the zero lower bound” (*American Economic Journal: Macroeconomics*) などがある。80年東京都生まれ。